

平成 30 年 6 月 9 日
平成 30 年 7 月 1 日一部修正

日本の LCC を概観する (2)
～ 指標でみる LCC ～

日本の LCC (+SKY) を旅客に係る指標で比べてみた。
同じ日本の LCC といっても、事業内容は各社微妙に異なっており、比較する際に留意すべきこともある。

1. 便数と路線構造；

- ① **便数**；2016 年度の便数（1 日当り往復^{*}）は、Peach と Jetstar-J が 46 便で並び、Vanilla の 19 便、Spring-J の 5 便と続く。
なお SKY は 62 便でどの LCC よりも多い。
但し内際別にみると、Jetstar-J は約 9 割が国内線であるのに対し、Vanilla は内際半々となっている。SKY は全便国内線。
- ② **路線距離**；国内線の平均路線距離は各社 1,000km 前後である。
但し関西^{*}ベースの Peach は短めであり、長い路線中心の Vanilla は長距離。
国際線は国内線より長距離だが、関西^{*}ベースで韓国や台湾路線の多い Peach が短めであり、中国内陸部の武漢・重慶に飛ぶ Spring-J は最も長い。
総平均では、国際線割合の高い Vanilla が 1,700km と最も長くなっている。
- ③ **座席^{*}；** 便数 × 距離で実質的な供給規模を表す「座席^{*}」の際内割合をみると、Vanilla は 2/3 が、Peach も 46% が国際線である。

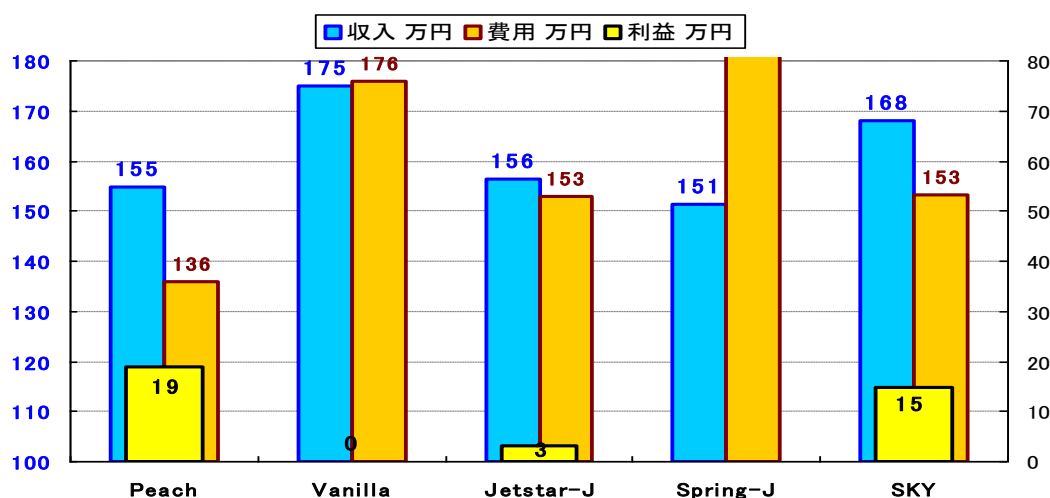
		(参考)				
		Peach	Vanilla	Jetstar-J	Spring-J	SKY
		(2017.3)	(2017.3)	(2017.6)	(2016.12)	(2017.3)
(決算期)						
1 日当り便数	往復/日	46	19	46	5	62
	(うち国内線)	29	9	41	4	62
	(うち国際線)	17	9	5	1	0
平均距離	km	1,113	1,702	1,223	1,380	1,058
	(国内線)	955	1,151	1,061	968	1,058
	(国際線)	1,385	2,258	2,493	2,933	-
座席 [*] 国際割合	%	46	66	24	41	0

2. 1 便（片道）当たりの収益性；

- ① 便当り収支； 便当り収入は Vanilla と SKY が 170 万円程度と多く、他の 3 社は 150 万円台である。

Vanilla は費用も多く、Jetstar-J と SKY は 153 万円と並んでいる。Peach は 136 万円と最低。

営業利益は Peach が目立って高い 19 万円、Jetstar-J は 3 万円、Spring-J は赤字。SKY は 15 万円の利益をあげている。



- ② これに距離要素を加味して解釈すると以下のとおりとなる。
- ・ **Peach**；短い路線（基本運賃が低い）で他社並みの収入を稼いでいる。飛行時間が短い⇒燃油費のかけがえが少ない等もあって費用は少ない。収入面での健闘と費用の少なさによって高い利益をあげている。
 - ・ **Jetstar-J**；Peach に比べて距離（飛行時間も）が長い。便当り費用は Peach より燃油費等が多いことが絡んでいると考えられる。収入はほぼ Peach 並みにとどまっている。よって利益は出ているが、Peach に比べて小さい。
 - ・ **Vanilla**；便当り収入が多いのは発着運賃の高い長距離路線が多いためであり、費用も同理由（長距離）で多い。
 - ・ **Spring-J**；規模の効果がなく、収入で費用をカバーできない状態である。
 - ・ **SKY**は、費用は Jetstar-J 並みであるが収入が大きく上回り、その分利益が大きくなっている。

3. 1 便（片道）当たりの旅客数と収入単価；

各社の機材や客室仕様（座席数）がほぼ同じであることから、旅客数や旅客単価の傾向も「便当り」と同じ傾向を示している。

- ① **平均座席数と旅客数**； Peach、Vanilla、Jetstar-J は 180 席に 154～155 人の旅客が搭乗している。Spring-J は 189 席に 144 人、SKY は 177 席に 150 人。
- ② **B/E 旅客数**； 採算ラインとなる旅客数（B/E=Break Even）は Peach が 135 人で最も少なく、SKY もこれに近い 136 人。この 2 社は採算をとりやすいといえ、結果的に実績としてこれを超えている旅客数（⇒利益をもたらす）が多い。
Jetstar-J は費用を回収して採算をとるために 151 人が必要であり、B/E を上回る旅客数は 3 人にすぎない。Vanilla の B/E は実搭乗人数並みの 155 人。
- ③ **平均旅客単価と座席コスト**； 旅客単価は、LCC の 3 社が 10,000 円台※でほぼ横並び、Vanilla と SKY は約千円上回る 11,000 円台（SKY の便収入の多さは LCC と同じような路線ながら運賃レベルが高いこと、Vanilla は国際線等長距離路線がおおいことによる収入単価の高さからもたらされている）

※付加収入をも含む

座席コストは、Peach のみ 7,000 円台、Jetstar-J、SKY は 8,000 円台、Vanilla は路線距離が長いことにより 9,000 円台。なお Spring-J はけた違いに高く、赤字の原因となっている。

		Peach	Vanilla	Jetstar-J	Spring-J	SKY
平均座席数	席	180	180	180	189	177
平均旅客数	人	154	155	154	144	150
B/E 旅客数	人	135	155	151	250	136
利益相当旅客数	人	19	0	3	-106	13
旅客単価	円/人	10,083	11,270	10,149	10,541	11,226
座席コスト	円/席	7,557	9,760	8,502	13,928	8,655

4. 収益性指標で総まとめ；

LCC 各社とSKYの収益性を、路線距離を加味した収益性指標で比較した。

		Peach	Vanilla	Jetstar-J	Spring-J	SKY	AirAsia-J
機数(2016期末) (今後の展望)		18 ('22)両社で55機	12	20 ('19)28機	3 17に+3機	26 ('20)29機	17.10就航 17現在2機
収入	億円	517	240	528	52	756	
営業利益	億円	63	-1	11	-38	67	
旅客 ^キ	百万 ^キ	5,710	3,624	6,365	676	7,128	
座席 ^キ	百万 ^キ	6,732	4,222	7,460	860	8,470	
搭乗率	%	85	86	85	79	84	
旅客 ^キ 単価	円/千 ^キ	9,057	6,623	8,297	7,636	10,605	
座席 ^キ コスト	円/千 ^キ	6,745	5,699	6,932	10,441	8,132	
距離B/E	%	74	86	84	137	77	
機材生産性							
座席 ^キ	百万 ^キ /機	374	352	373	287	326	
収入	億円/機	29	20	26	17	29	

(注) 期末機数をもとに算出；期中の変化によっては実態との乖離が発生する可能性がある。

- ① **Peach**； 18機（期末機数）で517億円の収入を得て63億円の営業利益を稼ぐ。旅客の^キ単価（千^キ当り収入）はLCCの中で最も高い9,057円、座席の^キコストはLCCの中で最も低い6,745円。このため採算ライン（B/E）は74%と低め。実際の搭乗率はこれを大きく上回る85% ⇒大幅利益を生む。なお1機が1年間に生産する座席^キは374百万^キでJetstar-Jと並び多く、旅客^キ単価の高さもあって1機が稼ぐ年間収入は29億円⇒SKYと並び多い。実際の運賃は、超格安のキャンペーン運賃など決して割高さが感じられない中で、平均収入単価が高めとなっているのには、イット管理の秀逸さが推測される。
- ② **Jetstar-J**； 20機で528億円の収入を得て11億円の営業利益を稼ぐ。旅客の^キ単価はPeachよりも低く、座席の^キコストはPeachよりも高い。このため採算ライン（B/E）は84%と高い。実際の搭乗率はこれをわずかに上回る85% ⇒小幅ながら利益を生む。1機が生産する座席^キは373百万^キでPeach並みながら、収入^キ単価が低いため、収入は26億円。

- ③ **Vanilla** ; 12機で240億円の収入を得ているが営業利益を稼げていない。
運賃・便費用ともに距離当りでは低めとなる長距離路線が多いため、平均の旅客
✕単価、座席の✕コストともに低く、採算ライン (B/E) は86%。
実際の搭乗率は86%と同じため、利益を生んでいない。
1機が生産する座席✕は352百万✕で少なくはないものの、収入✕単価が低いた
め、収入は20億円。
- ④ **SKY** ; 26機で756億円の収入を得て67億円の営業利益を稼ぐ。
旅客の✕単価がLCCよりも高い(10,600円)ため、比較的高い座席✕コスト(8,132
円)にもかかわらず採算ライン (B/E) は77%とLCCモデルでは低め。
(大手2社や中堅3社と比べれば十分高いが)
実際の搭乗率はこれを大きく上回る84% ⇒大きな利益を生んでいる。
1機が生産する座席✕は326百万✕とLCCの3社よりは少なめながら、収入✕単
価が高いため、年間収入はPeach並みの29億円。

以上